

挨拶

司会 ただ今より「アジアの歌と舞いシンポジウム」を開会いたします。ご来場いただきましてどうもありがとうございました。昨日のパフォーマンスの熱気が天に届いたのでしょ
うか、今日は昨日と打って変わっていいお天気になりました。昨日のパフォーマンスプロ
グラムでは、後援者の方々の身体の振動までがこちらに伝わってくるような、非常に臨場感の
ある舞台でございましたけれども、今日のシンポジウムはこのようなパフォーマンスの体験
を踏まえて、それぞれの方のご発表をお聞きするという、いわば今日的な体験的シンポジ
ウムというふうにご理解いただければ非常にありがたいと思います。それでは立命館大学神林
恒道より開会のご挨拶を申し上げます。

神林 ご紹介にあずかりました神林でございます。今年はお出雲阿国が鴨河原で歌舞伎興行
をおこなってから400年になります。立命館大学では21世紀COEプログラム「京都アー
ト・エンタテインメント創成研究」の一環といたしまして、日本学術会議芸術学研究連絡委
員会との共催ということで、これに因むパフォーマンス+シンポジウム、「アジアの歌と舞
い」を企画いたしました。この企画は歌舞伎という日本の伝統芸能を歴史的に振り返るとと
もに、アジア的美意識の広がりの中でこれを眺めてみようというものであります。さらに加
えて表象芸術の視点から、アジア的身体表現の独自性を明らかにしてみたいと思ってお
ります。昨日は非常に華やかな、そしてまた盛りだくさんなパフォーマンスが行われましたが、
そうしたパフォーマンスの経験を踏まえまして、今日はそうした問題をさまざまな芸術学的
な観点からスポットを当ててみたいと考えているわけです。パネリストの方々のご発言と討
議の後で、一般からもコメントをお願いすることになると思いますが、その際には皆さん方
よろしくご協力お願いしたいと思います。

そこでこのディスカッションあるいはシンポジウムに先立ちまして、立命館大学の川嶋將
生先生に記念講演としまして、「四条河原の歴史的環境」と題したご講演をいただきたいと
考えております。どうぞ皆さまよろしくお願ひいたします。